

## 経営者への活きた言葉

## 誰よりも働く 佐須田 茂(佐須田建設社長)

1. 日経トップリーダーと東京商工リサーチによる共同調査で、総合ランキングで首位となった佐須田建設は、神奈川県綾瀬市の建設会社だ。直近2011年9月期の売上高は12億4700万円。5年前の2007年の売上高は2億3100万円で、この5年間で5.4倍に急増した。  
創業者の佐須田茂社長は宮大工の出身。1967年22歳で独立をしてから、主に戸建て住宅の建設を手掛けてきた。
2. 「佐須田建設は盆も休まず仕事をする」。地元ではこんな評判が立っているという。  
職人肌の佐須田社長は、「この評判に偽りがないように精神を重ねることが何より大切」と謙虚に語る。  
実は、創業当初は建売住宅の下請け仕事をしていたが、儲からずに苦勞した。  
そこで元請けへの転身を決意。その際、「誰よりも働く」ことを自らに課した。
3. 施工だけでなく、山から丸太を切り出し、製材までした。手間はかかるが自分で何でもこなせば、その分支出が減らせる。事業が軌道に乗ると、製材などは他社に任せたものの、設計から施工、アフターサービスに至る一貫体制は今も貫いている。

(参考:「日経トップリーダー」2012年4月号)

## 経営者のための危機管理

## 会社を危うくする原因 片山 利雄(ニッセンホールディング会長)

1. 経営者はともすれば、会社は自分のもののように思ってしまうがちです。  
特にその地位に長く就いていると抑止力が効かなくなります。しかし、それでは時に社会の常識とは懸け離れた判断をしてしまい、会社を危うくする可能性もあります。最近でも、経営トップのガバナンスの問題から危機を招いたいくつもの企業が新聞の紙面などをにぎわしたばかりです。
2. 私はガバナンスは土壌だと思うのです。いくらいい種をまいても土壌が悪ければ作物は実りません。同様にいい製品や事業を持っていても、ガバナンスに対する経営トップの姿勢次第で企業は良くも悪くもなります。とかくネガティブに語られがちなガバナンスの問題ですが、企業経営になくてはならない土壌であるとポジティブに考えることが不可欠だと思います。

(参考:「日経ビジネス」2012年2月20日号)